

DAICHI

MIDORINET KUMAMOTO

Greeting

01

新年の御挨拶 水土里ネット熊本 会長 竹崎 一成
第18期(令和5年4月~令和9年3月末日) 役員名簿
年頭御挨拶 全国水土里ネット 会長 二階 俊博
新年にあたって 全国水土里ネット会長会議 顧問
参議院議員 進藤 金日子

Action

04

「第47回全国土地改良大会 佐賀大会」開催
農林水産省農村振興局長表彰 中逸 博光 氏
(前長洲町長・本会前理事)
全国土地改良事業団体連合会長表彰 永森 文彦 氏
(教良木土地改良区理事長)
今年度の要請・要望活動
男女共同参画推進大会 in くまもとの開催
「令和7年度 水土里ネット役員研修会」を開催

Information

09

第9回 インフラメンテナンス大賞
「農林水産大臣賞」受賞
令和6年能登半島地震支援に係る
農林水産大臣からの感謝状贈呈式
「2025くまもと農業フェア」開催
くまもと水土里ネット女性の会による
「水土里ミニマルシェ」開催
非補助農業基盤整備資金のご案内
土地改良法律相談のご案内
土地改良区の「指導監査」のご案内
第48回全国土地改良大会奈良大会のお知らせ

新年の御挨拶

水士里ネット熊本 会長
(熊本県土地改良事業団体連合会)

竹崎 一成



熊本県土地改良事業団体連合会
会長 竹崎 一成

明けましておめでとうございます。

日頃より、本会の業務運営並びに農業農村整備事業の推進に対し、格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年8月には、熊本県において豪雨災害が発生し、熊本地震に次ぐ大きな被害をもたらしました。農地や農業用施設にも甚大な影響が及び、改めて自然災害の脅威と、農業生産基盤の重要性を強く認識させられる出来事となりました。被災地の一日も早い復旧・復興を願うとともに、将来を見据えた防災・減災対策の重要性を痛感しております。

また、近年続く物価上昇や資材価格の高騰に加え、コメをはじめとする食料を巡る動きが社会的な関心を集める中で、「食」と「農」を安定的に支える基盤の重要性が、国民の間

でも改めて見直されています。一方で、担い手不足や施設の老朽化など、農業・農村を取り巻く環境は依然として厳しく、持続可能な農業の実現に向けた対応が求められています。このような中、昨年9月には新たな土地改良長期計画が閣議決定され、農業生産基盤の計画的な整備に加え、施設の適切な保全管理、防災・減災の視点が明確に位置付けられました。これらは、農業農村整備事業に携わる私たちにとって、今後の方向性を示す極めて重要な指針であります。

本会といたしましても、国や県、会員である市町村並びに土地改良区、関係機関と緊密に連携しながら、地域の実情に即した農業基盤の整備と保全に取り組み、熊本の農業・農村を次世代へ確実に引き継ぐ役割と使命を果たしてまいります。

結びに、本年が皆様にとって実り多い一年となりますことを心より祈念するとともに、引き続き本会の事業運営に対し、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

第18期(令和5年4月～令和9年3月) 役員名簿

(令和8年1月現在)

会長	竹崎 一成 (芦北町長)
副会長	坂田 孝志 (八代平野北部土地改良区理事長)
副会長	元松 茂樹 (宇土市長)
常務理事	久保田 修 (学識経験者)
理事	津田 正昭 (熊本市西南土地改良区理事長)
理事	西村 博則 (益城町長)
理事	金田 英樹 (大津町長)
理事	古庄 廣美 (泗水町土地改良区理事長)
理事	早田 順一 (山鹿市長)
理事	本田 二男 (阿蘇土地改良区理事長)
理事	藤本 一臣 (氷川町長)
理事	森本 完一 (錦町長)
理事	馬場 昭治 (天草市長)
理事	酒瀬川 美鈴 (学識経験者)
総括監事	岡村 文明 (百太郎溝土地改良区理事長)
監事	宮原 雄一 (熊本平野南部土地改良区理事長)
監事	草村 大成 (高森町長)



全国水土里ネット
会長 二階 俊博

令和8年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より、農業農村整備事業の推進に対し、関係各位の格別の御理解と御支援を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、全国各地で記録的な猛暑や集中豪雨など、気候変動の影響が一段と顕著となり、皆様の地域にも大きな影響を及ぼしたのではないかと存じます。

豪雨等により被害を受けられた地域の皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

いま、国際社会は、地球規模で頻発する異常気象や世界的な物価高騰などの諸問題に直面しています。一方、我が国の農業・農村は、農業者の高齢化や減少により、農業の継続やそれを支える農地や農業用水の保全管理が困難になるなどの課題を抱えるなど、農業・農村を取り巻く環境は大きく変化しています。

これらの様々な問題の解決のために、食料・農業・農村基本法や土地改良法の改正が行われ、そして、新たに策定された土地改良長期計画に基づき、令和7年度から11年度までの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとなりました。

競争力のある農業を支える「大区画ほ場整備」や「スマート農業に対応した基盤整備」、また、「中山間地域におけるきめ細かな整備」をスピード感を持って進めていかなければなりません。

本年の干支は「午」であります。『前進』『飛躍』の年とされています。まさに地域農業が新たな局面へ踏み出す一年となりますことを願うところであります。

令和8年度農業農村整備事業関係予算政府原案

においては、農業構造改革を集中的に進めるため、4,504億円が計上され、令和7年度補正予算を加えると6,942億円となります。

皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごしていただけますよう御祈念申し上げます。新年の御挨拶いたします。



新年にあたって

全国水士里ネット会長会議 顧問 参議院議員

進藤 金日子



全国水士里ネット会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子

あけましておめでとうございます。

熊本県土地改良事業団体連合会の会員並びに係の皆様には、私の政治活動にご理解・ご支援を頂戴し、厚く感謝申し上げます。本年も現場主義、地域主義に徹し、農業農村の振興に努めてまいりますので、よろしくご指導をお願い致します。

さて、昨年は、農政、国土強靱化、我が国経済にとって節目の年であったと考えています。土地改良法改正、食料・農業・農村基本計画の策定、農業構造転換集中対策の開始、新たな土地改良長期計画と第一次国土強靱化実施中期計画も策定されました。10月に高市早苗内閣が発足し、日本経済強靱化計画（通称サナエノミクス）が提唱され、我が国の経済転換の期待も広がっています。

3月の土地改良法の改正では、農業生産の基盤の整備に加えて保全に必要な施策を講ずることが

明定され、土地改良区が市町村等と連携していわゆる水士里ビジョンを作成し、土地改良施設及び

末端施設の保全を行う仕組みを位置付けました。

4月に策定された食料・農業・農村基本計画では、令和7年度からの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとし、「農地・水の確保」、「地域計画に基づく担い手への農地集積・集約化」、「農地の大区画化」等に関し具体策を位置付け、また、「食料システム全体で合理的な費用を考慮した価格形成を推進」することも位置付けました。自民党は、基本計画の実施に関して別枠予算の確保を求め、私はこれらの事業規模の積算を託され、実務的に2.5兆円の積み上げを行いました。

9月には新たな土地改良長期計画が策定され、「基盤整備による生産コストの低減」、「農業水利施設の戦略的な安全管理による持続的な機能確保」、「激甚化・頻発化する災害に対応した防災・減災対策」等に関する5つの目標を設定しました。

6月には第一次国土強靱化実施中期計画が策定され、令和8年度から令和12年度に推進が特に必要となる施策目標を設定、5年間の事業規模を「おおむね20兆円強程度」を目途としました。土地改良では、防災重点農業用ため池の防災・減災対策、

農業水利施設等の老朽化・耐震化対策などを進めることとしています。

11月には、総合経済対策が閣議決定され、食料安全保障の確立、防災・減災・国土強靱化等を推進していく上で必要な対策と予算が盛り込まれ、土地改良関係では2,439億円が措置されました。これらの政策を進めるためには土地改良の推進

が重要です。特に農業構造転換集中対策期間の5年間では別枠予算も確保して強力に進めていく必要があります。令和8年度に執行可能な土地改良予算は、令和7年度補正2,439億円と令和8年度概算決定4,504億円の合計6,942億円（昨年比44.2億円増）となっています。予算のスムーズな執行に対する貴連合会による技術支援とご協力をお願いいたします。

私は本年も土地改良の推進のため努力してまいりますので、皆様方からの益々のご指導、ご支援をお願いし、新年のご挨拶と致します。

令和7年10月15日(水)、佐賀県佐賀市の「SAGAアリーナ」において全国土地改良大会 佐賀大会～水を利用して土を活かす さがで語ろう郷里の未来～が開催されました。

本会からは、竹崎会長、坂田副会長、久保田常務理事他6名の理事・監事並びに事務局7名が参加しました。加えて熊本県からは、永田農村振興局長他2名が参加され、県下の土地改良区から18団体65名などを合わせた総勢98名が本全国大会に参加しました。当日は、全国の土地改良関係者約4,500名が参集し、盛大に開催されました。



▲会場の様子



水土里ネット佐賀
田島会長 開会挨拶



全国水土里ネット
二階会長 主催者挨拶



全国水土里ネット会長会議
進藤顧問 来賓祝辞

大会式典の中で行われた土地改良功績者表彰では、前長洲町長で本会前理事の中逸様が農林水産省農村振興局長表彰を、教良木土地改良区の永森理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞され、長年にわたり土地改良事業の推進に貢献された功績が称えられました。

次に、農林水産省青山農村振興局次長による基調講演、優良地区事例紹介、大会宣言と続き、次期土地改良大会開催県である奈良県の紹介とともに、大会旗が水土里ネット奈良へ引き継がれ、式典は盛会のうちに終了しました。

～土地改良事業功績者表彰者の紹介～

第47回土地改良大会佐賀大会において、土地改良事業功績者表彰が行われました。



▲前長洲町長・本会前理事
中逸様

◆農林水産省農村振興局長表彰

前長洲町長・本会前理事 中逸 博光 氏

【主なご功績】

- 平成21年5月に長洲町長に初当選。以後4期16年在職。平成30年4月には本会理事就任。
- 農業政策としては、就任当初から数々の県営・団体営事業の実施に尽力。特に平成29年より始まった県営経営体育成基盤整備事業第二腹赤地区においては、早期事業化に対する地元の強い要望に応え中逸氏が中心となって事業の推進に尽力。
- 長洲町が管理する7か所の排水機場についても適切な運営や維持管理が強く求められ、管理体制の構築にも尽力。中でも造成から40年以上経過している平原排水機場については、老朽化のため早期な対応が必要であったことから中逸氏を中心に町としても更新事業を強く要望するなど、令和元年度から始まった県営湛水防除事業の実施に大きく貢献。
- 他排水機場についても土地改良施設維持管理適正化事業等を活用して適宜オーバーホール等の整備補修を行い、農業水利施設の適正化や長寿命化に努められた。
- 多面的機能支払については中逸氏の強いリーダーシップのもと、県内でもいち早く広域化の推進に取り組み、平成31年に1町1組織を実現。



▲教良木土地改良区理事長
永森様

◆全国土地改良事業団体連合会長表彰

教良木土地改良区理事長 永森 文彦 氏

【主なご功績】

- 令和3年から土地改良区理事長就任。
- 地域の基幹的水利施設である教良木ダムを中心とした用水施設等について、永森氏による適切な管理体制のもと日常的な維持管理を通じて、農業用水の安定供給に尽力。改良区理事就任以前から上天草市職員(経済振興部長等)としても教良木ダムをはじめとする県営事業に深く関わり、長きにわたり地域農業の発展に貢献。
- これら管理施設について、造成後40数年が経過し、老朽化等により維持管理の重要性が増す中、永森氏が中心となり県営水管理システム更新事業等を活用した施設の整備補修について推進されるなど、円滑な事業の実施に大きく寄与。
- 令和2年度より熊本県と締結した協定に基づき、県有施設である教良木ダムの事前放流を実施するなど農業水利関係者への調整及び理解醸成や災害の未然防止に尽力。
- 女性理事2名を登用するなど男女共同参画の推進にも積極的に取り組む。

6 / 6
~
9 / 10

熊本県農地防災事業推進協議会・熊本県ため池協議会 合同要請要望活動

令和7年6月9日(月)～10日(火)にかけて、熊本県農地防災事業推進協議会・熊本県ため池協議会は、農林水産省・財務省及び関係国会議員等、関係各機関に対する合同要請・要望活動を実施しました。今回の要請・要望活動には両協議会の会長である元松宇土市長をはじめ、農地防災事業推進協議会副会長の竹崎芦北町長、藏原玉名市長、ため池協議会副会長の早田山鹿市長など、両協議会役員12名が参加しました。県からは永田農村振興局長が、本会からは久保田常務理事が参加しました。

本要請・要望活動では、自由民主党森山幹事長(当時)、財務省山川主計官(農林水産担当)、自由民主党坂本国会対策委員長(当時)、内閣官房丹羽国土強靱化推進室次長(当時)、農林水産省長井官房長(当時)、前島農村振興局長(当時)、青山農村振興局次長、金子衆議院議員、進藤参議院議員らと面談し、重要な排水機場、農業用ダム等の老朽化対策について、別枠予算を含めた十分な予算の確保及びため池特別措置法の期限の令和12年度末までにソフト対策及びハード対策を着実に実施するための予算確保等を求めました。



▲自由民主党 森山幹事長(当時)へ要望書の手交



▲財務省 山川主計官との面談状況



▲農林水産省 長井官房長(当時)へ要望書の手交



▲進藤参議院議員へ要望書の手交



▲内閣官房 丹羽国土強靱化推進室次長(当時)との面談状況



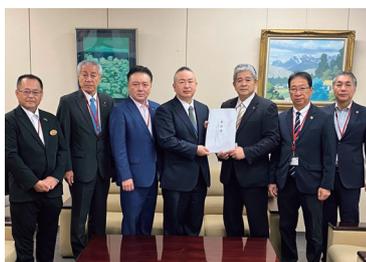
▲金子衆議院議員へ要望書の手交

10 / 10
~
23 / 24

熊本県農地防災事業推進協議会 緊急要望活動



▲農林水産省 松本農村振興局長へ
要望書の手交



▲総務省 出口自治財政局長へ
要望書の手交



▲馬場参議院議員との面談状況



▲農林水産省 松本農村振興局長との
面談状況

令和7年10月23日(木)～24日(金)にかけて、熊本県農地防災事業推進協議会は、農林水産省・総務省・財務省並びに関係国会議員等、関係各機関に対する緊急要望活動を実施しました。本推進協議会の会長である元松宇土市長、理事である藤本水川町長、他2名の監事、熊本県からは永田農村振興局長、本会からは久保田常務理事が参加しました。

今回の緊急要望活動では、財務省宮下主計官(農林水産担当)、総務省出口自治財政局長、農林水産省中澤危機管理・政策立案総括審議官、松本農村振興局長、石川整備部長、坂本衆議院議員、馬場参議院議員、藤木参議院議員、進藤参議院議員らと面談し、令和7年8月豪雨災害に伴う排水機場の早期復旧と機能強化を中心とした、被災農地・農業用施設の復旧支援を求めました。

11 / 06

九州農業農村整備事業推進協議会・土地改良事業団体
連合会九州協議会による合同要請活動

令和7年11月6日（木）、九州農業農村整備事業推進協議会・土地改良事業団体連合会九州協議会合同での農林水産省・財務省並びに関係国会議員等、関係各機関に対する合同要請・要望活動を実施しました。本会からは、竹崎会長、坂田副会長、他事務局3名が参加しました。

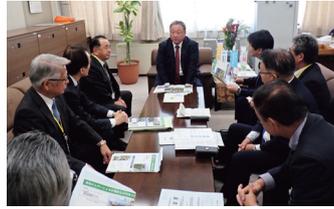
今回の要請・要望活動では、自民党鈴木幹事長、財務省三反園政務官、農林水産省山下副大臣、松本農村振興局長、河村農村政策部長、石川整備部長、参議院議員進藤事務所坪田秘書と面談し、令和7年度農業農村整備事業概算要求額の満額確保並びに国土強靱化対策に必要な予算措置など要望書記載の5項目について積極的に要請・要望活動を展開しました。



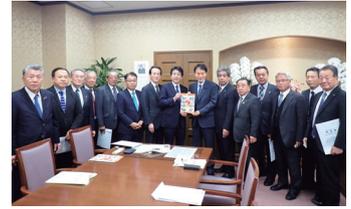
▲自民党 鈴木幹事長へ要望書の手交



▲農林水産省 山下副大臣との面談状況



▲農林水産省 松本農村振興局長との面談状況



▲財務省 三反園政務官へ要望書の手交

11 / 11
13 / 14

多面的機能支払交付金に係る要請活動

令和7年11月13日（木）～14日（金）にかけて、熊本県、熊本県多面的機能支払推進協議会並びに活動組織2組織（三角町地域資源保全隊広域協定、小川町地域資源保全隊広域協定）は多面的機能支払交付金の予算確保と制度継続を目的として、農林水産省及び財務省に対して要請活動を実施しました。熊本県からは、永田農村振興局長、岩田むらづくり課長が、本会からは、吉岡総務部長、西会員支援課長が参加しました。

今回の要請活動では、財務省上田主査、農林水産省青山農村振興局次長、石川整備部長と面談し、本交付金が農地・農村の維持に不可欠なものであること、担い手への農地集積にも大きな役割を果たしていること、加えて直営施工や非農家の参加といった具体的な成果や工夫を訴え、予算確保と制度継続を求めました。



▲財務省 上田主査へ要望書の手交



▲農林水産省 青山農村振興局次長へ要望書の手交



▲農林水産省 石川整備部長へ要望書の手交

11 / 26

「農業農村整備の集い」開催

「農業農村整備の集い」が全国水土里ネット及び都道府県水土里ネットの共催により、令和7年11月26日（水）、東京都千代田区のシェーンパツハ・サポールにおいて開催されました。全国水土里ネット会長会議顧問である進藤参議院議員、農林水産省から鈴木農林水産大臣をはじめ農村振興局幹部、衆参両院の国会議員が多数出席し、全国の土地改良関係者を合わせて900名以上が参集し開催されました。進藤参議院議員からの情勢報告が行われた後、出席者の代表として水土里ネット奈良が音頭を取り、参加者全員で力強く「ガンバロウ三唱」を行い、盛会のうちに終了しました。



▲「農業農村整備の集い」会場の様子



▲出席者による「ガンバロウ三唱」



◆主催者挨拶

全国水土里ネット 二階会長

食料安全保障の確立に向け、構造転換を加速させる別枠予算の確保の必要性を訴え、「戦う土地改良」の下、関係者が一丸となって予算獲得に挑むべきだと強調されました。各地の尽力に謝意を述べ、さらなる結束を呼びかけられました。

令和7年11月4日（火）～5日（水）にかけて、全国水土里ネット女性の会及びくまもと水土里ネット女性の会が主催となり、農業農村における男女共同参画と女性の活躍の重要性を全国へ発信することを目的に、ここ熊本県で開催されました。本大会には、全国から約240名が参加し、4日には大会式典と交流会が、5日には2コースに分かれて県内の現地研修が行われました。

《 基調講演 》

やる気スイッチは押しつ押しされつ

～共に考え、共に動いた分、地域は変わっていく～

基調講演では、福岡県みやま市農業委員会会長で山川地区土地改良区理事の徳永様に、ご自身でご活躍されてきた地域農業に関する体験談と想いについて講演していただきました。

仲間と協働しながら課題に向き合い、「今、行動すること」の大切さを語られ、参加者に大きな気づきと勇気を与える講演となりました。

《 パネルディスカッション 》

誰もが活躍できる地域農業を目指して

～水土里ネットの挑戦～

パネルディスカッションでは、「誰もが活躍できる地域農業」をテーマに、3つのセクションから、土地改良区、生産者、行政など多様な立場から意見が交わされました。担い手不足や固定的役割意識といった課題を共有するとともに、制度や仕組みの工夫、意識改革の重要性が確認され、今後の地域づくりにつながる示唆に富んだ議論となりました。

大会式典



▲基調講演の様子



▲パネルディスカッションの様子

交流会

交流会では、熊本の食文化を取り入れた料理や、伝統芸能・山鹿灯籠踊りによるおもてなしを通じて、参加者同士の交流が深まりました。全国各地から集まった水土里ネットの関係者が地域や立場を越えて語り合い、情報交換やつながりを育む、和やかで有意義なひとときとなりました。



▲交流会の様子



▲山鹿灯籠踊り

現地視察

熊本コース

熊本地震からの復旧・復興を軸に秋津飯野地区を訪れ、営農活動の継続を最優先に考えた復旧工事により、地域農業を再建してきた経緯について説明を受けました。また、熊本城では、震災復興のシンボルとして天守閣が最優先で復旧され、令和3年3月に完全復旧した一方、城内の多くのエリアでは現在も復旧工事が続いている現状を学びました。



現地視察

阿蘇コース

熊本地震震災ミュージアム (KIOKU) を訪れ、震災の記憶や被災の実態、復興への歩みについて理解を深めるとともに、地震により被害を受けた大切畑ダムの復旧状況について研修しました。あわせて、草千里を訪れる道中、世界農業遺産にも認定されている日本最大の草原を一望しながら、雄大な自然と共生し、持続可能な農業を支えてきた阿蘇地域の知恵と営みについて学びました。



令和7年11月20日（木）、メルパルク熊本において、本会と熊本県の共催による「令和7年度 水土里ネット役職員研修会」が開催されました。本研修会は、県内土地改良区の運営基盤強化を目的として実施され、県内各地の土地改良区から122名の参加がありました。

土地改良区に向けた、昨今の情報提供に加え、熊本平野南部土地改良区の久我事務局長より、今年度本格運用を開始した「くまもと水土里GIS」を活用した土地改良施設の保全管理における効率化について、事例発表がありました。



水土里ネット熊本 久保田常務理事
 熊本県 大森首席審議員兼課長
 水土里ネット熊本 西岡財務経理課長
 日本政策金融公庫 伊藤課長
 日本政策金融公庫 齊藤様・藤澤様
 全国水土里ネット 阿部参与
 熊本平野南部土地改良区 久我事務局長
 熊本県 永田農村振興局長

- Program -----
- 開会挨拶**
 (水土里ネット熊本 久保田常務理事)
- ①「地域の未来を拓く農業農村整備の推進力」
 (熊本県農林水産部 農村振興局 農地整備課 大森首席審議員兼課長)
 - ②「不正が起きない組織づくり」
 (水土里ネット熊本 財務経理課 西岡課長)
 - ③「農業基盤整備資金について」
 (日本政策金融公庫 熊本支店 農林水産事業 融資第二課 伊藤課長、融資第一課 齊藤様、融資第三課 藤澤様)
 - ④「農家負担金軽減支援対策事業について」
 (全国水土里ネット 管理システム研究部 阿部参与)
 - ⑤「土地改良施設の維持管理について」
 (熊本平野南部土地改良区 久我事務局長)
- 閉会挨拶**
 (熊本県 農林水産部農村振興局 永田局長)



開催状況

太田様
 特別講演会

熊本の水土里ネットを未来に! ～水土里ネットの役職員の皆さんと考える～

熊本の水土里ネットを次世代へつなぐための方策を参加者と共に模索することを目的として、役職員研修会の終了後、本会主催による特別講演会を開催しました。講師には、元農林水産省農村振興局長の太田様をお招きし、「熊本の水土里ネットを未来に! ～水土里ネットの役職員の皆さんと考える～」と題してご講演いただきました。

講演は、土地改良の歴史的意義や、未来を見据えた「願望実現型（バックキャスト）」の思考法、そして広報活動の重要性について提言をいただきました。会場からも意見や質問が寄せられ、熊本の水土里ネットの未来に向けた活発な意見交換の場となりました。



元農林水産省農村振興局長 太田様

第9回インフラメンテナンス大賞 「農林水産大臣賞」受賞

メンテナンスを支える活動部門

“GIS”と“ノーコードアプリ”を活用した
データ蓄積による土地改良施設の効率的な保全管理

令和8年1月20日（火）首相官邸2階大ホールにて、熊本平野南部土地改良区における「くまもと水土里GIS」を活用した土地改良施設の日常点検や突発事故の記録、機能診断結果等情報を共通のプラットフォームのもとで「見える化」することで効率的な施設の保全管理に努めた取り組みが評価され、熊本平野南部土地改良区・熊本県・本会とともに「農林水産大臣賞」を受賞しました。

！ くまもと水土里GISで情報が見える化

熊本平野南部土地改良区は、複数の土地改良区の合併により県内最大規模となり、老朽化した多数の農業水利施設を抱える中、点検・管理の非効率化が課題となっていました。

そこで、令和7年度に県全体で導入した“くまもと水土里GIS”を活用し、点検や事故、診断結果を一元的に見える化することで、効率的な施設保全管理を実現した取り組みが高く評価されました。

✓ 取り組みのポイント

農業水利施設を適切に保全管理するためには、点検や補修、更新整備に関する情報を継続的に蓄積することが重要です。そこで、施設ごとの位置情報や施設台帳、機能保全計画などのデータをGISに取り込み、情報を一元化することで、必要な情報を迅速に取得できるようになりました。

また、ノーコードアプリを活用し、現場で得た情報をタブレットからその場でGISに登録できる仕組みを構築したことで、情報のリアルタイム更新が可能となりました。さらに、県・市町村・土地改良区がオンラインで情報を共有できるようになり、事故発生時にも迅速な情報共有と的確な対応につながっています。



▲首相官邸にて記念写真

? インフラメンテナンス大賞とは

「インフラメンテナンス大賞」は、社会資本の維持管理に関する優良事例を表彰し、その普及を通じてメンテナンス分野の発展を促進するものです。

本大賞には、全国から332件の応募（うち農林水産省分野：79件）があり、選考委員会の審査を経て、この度、農林水産省の分野としては最高峰の大臣賞を受賞しました。

Pick up!
☑

令和6年能登半島地震支援に係る 農林水産大臣からの感謝状贈呈式

令和7年6月5日（木）に令和6年能登半島地震支援に係る農林水産大臣からの感謝状贈呈式が本会にて執り行われました。九州農政局山本設計課長より「農林水産大臣からの感謝状を預かり、正式にお渡しする場を設けていただいたことに謝意を表する」との主旨で挨拶がありました。

TOP MESSAGE

過去の経験を活かし、支援体制を全国へ

本会久保田常務理事は、「熊本地震や令和2年豪雨災害などにおいて、全国からの支援をいただいたことが記憶に新しく、その恩返しのため本会は支援させていただいた。今後ますます、災害が頻発・激甚化していく中、過去の経験を活かし、自助・共助・公助の精神で支援体制を全国ネットワークで構築していくとともに、能登地域の復旧が長期化する中、引き続き必要な支援には対応していきたい」と述べました。

本会からは、石川県志賀町へ職員5名が派遣されました。現地派遣職員を代表し川重課長補佐は「支援の中で本会の存在意義を強く感じた。いざという時に迅速に支援できる体制を今後も維持・強化していきたい」との想いを述べました。



▲農林水産大臣より感謝状



▲九州農政局 山本設計課長



▲派遣職員川重補佐(左)久保田常務理事(右)



▲山本設計課長とともに記念撮影

Pick up!

「2025くまもと農業フェア」開催

熊本県内の農畜産物などをPRする「2025くまもと農業フェア」が、令和7年11月8日（土）、9日（日）、合志市の熊本県農業公園「カントリーパーク」にて開催されました。本会は、熊本県農村計画課と共同で「田んぼダムジオラマ」及び「水源かん養システムジオラマ」の展示や農業に関する様々な学習パネルを展示したほか、田んぼダムに実際に使われるせき板の絵付け体験も行い、農業農村整備の取り組みを広く発信しました。開催中は降雨もありましたが、両日とも、大盛況のうちに終了しました。



本会職員による
水源かん養ジオラマ
の紹介

せき板の絵付け体験

農村計画課による
田んぼダムジオラマ
の紹介

本会職員による
田んぼダムジオラマ
の紹介

Pick up!

くまもと水土里ネット女性の会による 「水土里ミニマルシェ」開催

令和7年11月29日（土）に水土里ネット熊本屋外スペースにて「水土里ミニマルシェ」が開催されました。当日は、多数の地域住民及び土地改良関係の皆様にご来場いただきました。

本マルシェでは、県内各地の新米や新鮮な野菜、果物、花類の販売を行いました。また、学習コーナーでは、水源かん養や田んぼダムのジオラマ、水土里ネットの活動に関するパネルを展示し、それらを用いたアンケートやクイズスタンプラリーを巡りながら、子どもから大人まで幅広い世代の皆様に水土里ネットの取り組みについてご理解いただく貴重な機会となりました。

アンケートの中では「ぜひ来年も開催してほしい」との意見も多数寄せられており、今後も女性の会の活動の一つとして継続して参りたいと思っております。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



—くまもと水土里ネット女性の会—

県内土地改良関係機関（土地改良区、県、県土連）の女性職員等で構成（97名_令和7年度）されており、平成30年度より活動しています。

くまもと水土里ネット女性の会の
Instagram を開設しました!▶



KUMAMOTO_JYOSEINOKAI



ご案内

非補助農業基盤整備資金のご案内

非補助農業基盤整備資金とは？

土地改良区等が国の補助なしでかんがい排水やほ場整備などの事業を行う際に、日本政策金融公庫から農家負担の軽減を目的に低利で融資される資金です。

なお、県又は市町村が単独で行う事業についても、融資の対象となります。

特徴

1. 低利・長期で、必要な金額のほぼ100%を借りることができます。
2. ほとんどの土地改良事業について、必要な時にいつでも借りることができます。
3. 小規模な事業でも、借入金額が50万円以上であれば借りることができます。

融資条件

- 貸付対象者：土地改良区、土地改良区連合（事業主体となる場合に限る）、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む方
- 償還期間：25年以内（うち据置期間10年以内）
- 金利：非補助融資2.50%（令和8年1月現在）
※最新の金利は、最寄りの日本政策金融公庫にご確認ください。



日本政策金融公庫
熊本支店



096-353-3104

土地改良法律相談のご案内

近年、土地改良事業及び土地改良区を取り巻く環境は、施設の多様性や農村地域の都市化、混住化により諸問題等が複雑化・高度化しております。このような社会背景を基に、本会では土地改良事業相談等事業による法律に関する相談業務について、顧問弁護士に委嘱し会員の皆様の問題解決に努めております。

毎月1日を定期相談日と定め、（急を要する事案については随時）対応しておりますので、問題等ございましたら気軽にご相談ください。

また、本会HPにて、これまで土地改良相談等事業で扱った相談内容の一部を掲載しています。



会員支援課
会員・地域支援係



096-348-8802
（直通）



shinji.ueda
@higosanae.or.jp
上田

土地改良区の「指導監査」のご案内

複式簿記の義務化に伴い、これまで複式簿記の巡回指導を実施しておりましたが、令和7年度からは、財務諸表等を活用した経営の診断を実施し、運営の効率化や円滑な施設更新のための指導や助言を行っています。

また、本会職員（会計指導員）が電話やメールにより、会計経理全般のご相談にお答えいたします。

土地改良区等においては、原則、員外監事の選任が必要ですが、公認会計士や税理士から契約に基づく会計の指導を受ける、または、「土地改良連合会と契約に基づく指導監査」を受ける場合は、員外監事の選任が不要です。

本会は、令和6年度からサポートチームを強化して「指導監査業務」を始めましたので、ご要望の際は、お気軽にご相談ください。



財務経理課
財務指導係



096-348-8808
（直通）



daisuke.ishii
@higosanae.or.jp
石井

詳しくは本会HPから
ご覧ください



第48回全国土地改良大会奈良大会のお知らせ

令和8年11月17日（火）、第48回全国土地改良大会奈良大会（全国土地改良事業団体連合会、奈良県土地改良事業団体連合会主催）が、「奈良県コンベンションセンター」を会場に開催されます。

